

株式会社ジェイコム千葉 千葉セントラル局

2022年度 放送番組審議会 議事録

2022年度のジェイコム千葉 千葉セントラル局放送番組審議会は、2023年3月27日(月)に千葉セントラル局会議室にて開催された。

<放送番組審議会委員>

■ご出席

岩沼 静枝 様
大串 隆 様
佐久間 勝彦 様
関根 洋一 様
曾我辺 穰 様
松本 博樹 様

(50音順)

<放送番組審議会の中から会長、副会長及び、議長の選出> (事業者事務局)
会長に岩沼委員、副会長に関根委員を選出し、議長を岩沼会長に依頼。

<J:COM チャンネルご報告> (事業者担当)
事業者側から今年度のJ:COM チャンネルでの取り組みについて報告を行った。

<質疑応答・意見交換> (岩沼会長による進行)

■まとめ

- ・チャンネルコンセプトを「ど・ろーかる」と置き、地域の活動や災害情報を細部に亘りしっかりと取材し放送していることに対して一定の評価をする。
- ・今後も地域メディアとして更に努力をして、地域の皆様に寄り添う番組/企業として成長してほしい。
- ・また、改善が必要なこととして、「番組を知ってもらう努力」が足りないと感じるため、他のメディアへの発信等、伝える努力をすべき。

■意見(回答)詳細

関根副会長

- ・「ど・ろーかる」という取り組みが大事だと思っている。プロ野球・近藤健介選手(現・福岡ソフトバンクホークス)は、少年時代に「泉谷メッツ」へ所属しており、そこから横浜高校、プロの世界に進んでいる。近藤選手以外にもダイヤモンドのように輝いている、また、輝こうとしているアスリートをもう一步踏み込んで紹介する番組を制作してほしい。
- ・地元には野球、サッカー、車いす競技など、さまざまなスポーツが盛んだが、個々で紹介すると分断されてしまう恐れがある。これらを掛け合わせて1つにまとめてほしい。
- ・青年会議所には情報が不足しているので、地域情報を沢山持っている J:COM が相談に乗れる存在になってほしい。

佐久間委員

- ・県内の著名人に出演してもらうのは難しいが、同級生らに出演いただくことで、これまでの生き様にスポットを当てることができるのでは。
- ・未来情報も大事だが、きちんと1年間を振り返ることも大事。それが「あたらしいをあたりまえに」に繋がるのでは。
- ・ニュース取材を即日放送すると薄っぺらい内容になってしまうが、「WEEKLYトピックス」では、しっかりと編集されていてよい。
- ・学生で新聞を読んでいるのは30人のうち1人程度。彼らの情報源はスマートフォンになっているが、スマートフォンで分からない地域情報をTV画面で焼き付けることはよいと思う。

曾我辺委員

- ・飲食店情報はインターネットで溢れているが、J:COMで放送することで地域活性化に繋がる。また、コロナウィルス感染拡大により、飲食店の廃業や新規開業等、変化しているので、行ってみないと分からない面もあり、番組で紹介されると行きやすい。

松本委員

- ・J:COMが「ど・ろーかる」なメディアであること、地域で頑張っている人を応援していること、地域とメディアの距離が近いことが素晴らしい。
- ・千葉市は広く、中央区などの中心部の情報が多く取り上げられがちだが、若葉区や緑区の魅力も発信してほしい。
- ・「食」のテーマが一番出かける動機付けになる。
- ・市政だよりの情報は2か月前め切だが、J:COMはメディアとしてタイムリーな情報を発信されていてよい。

大串委員

- ・取材力が素晴らしく、コンテンツも多岐にわたっており、地域情報を細かく丁寧に発信できているが、J:COMをあまり良く知らない市民が意外に多く、残念である。もう少し他メディアへの発信を強めたほうがJ:COMを知って見てもらうチャンスができると思う。

関根委員

- ・情報提供者が J:COM スタッフを「ちゃん」付けで呼べる関係になれるような頼み事をしやすい人材がいるとよい。さまざまな組織に上手に入り込んでほしい。

岩沼会長

- ・取り上げてほしい情報がある場合はどのように依頼すればよいか？
- ・自分の関わるイベントを取り上げてほしい時は、記者クラブへ出す時があるが、他の TV 局は E メールなど、分かりやすく案内されている。もっと連絡先をきちんと明示したほうがよいのでは。取材として取り上げられた人は必ず TV を視聴するし、関わりのある人が出ると加入につながるケースもあると思う。

伊澤(事業者)

- ・現状は Twitter 等で情報入力いただくと弊社より折返し連絡するが、高齢者等、デジタル弱者にはこの類の方法では難しいため、カスタマーセンターへ問合せいただく形となる。連絡先等を知っていただくために市内の掲示板にポスターを貼るなどもっと努力をしたい。

佐久間委員

- ・線状降雨帯の発生により、TV が視聴できない場合も J:COM は有線なので影響がない。もっと災害に強い点を PR してはどうか。

伊澤(事業者)

- ・地震等の災害発生時、電気の供給が止まってしまうと弊社サービスもストップしてしまうが、そうでなければ情報発信をすることができる。

岩沼会長

- ・断水した際に公民館の給水情報など、J:COM が一番きめ細かく放送していた。
- ・高齢者に対する放送はどのように考えているか？

伊澤(事業者)

- ・ニュース番組では、キャスターの話すスピードやテロップのサイズ等で見やすい番組を意識して制作している。また、災害時は L 字でも同様の対応している。また、若年層への対応も必要と考えている。

岩沼会長

- ・一日中 TV を視聴している高齢者は、いつも行っている場所等の情報はよく見ている。これからもこうした身近な情報を期待している。

<閉会>

岩沼会長

活発なご審議をいただきありがとうございました。
これをもちまして本審議会を終了させていただきます。

越川(事務局)

本日頂戴した番組に対する貴重なご意見・ご要望を今後番組制作に活かしていく所存です。

以 上